

レ・ミゼラブル

との付き合い方

みのり

「レ・ミゼラブル」との付き合い方

子どもの頃に「ああ無情」を見たり読んだりして残った印象は「あずけられた家で意地悪されまくる少女」「パンを盗んだだけで19年牢獄に入れられた不遇な男の話」ということだった。「なんでパンを盗んだだけで19年も」とそこばかり印象に残ってしまいました。

成人した頃にミュージカルの存在を知りました。しかし「かわいそうな話」という印象しかない私は興味を持つこともなくそのままでした。それからさらに時間がすぎて、友人のつきあいで観劇したミュージカル「レ・ミゼラブル」は楽しい話では無いのだけど「いい話」だった。そして原作を慌てて読むことにしました。そしてこの本はこの年齢で、この時に見たから、さらに良かったんだと思います。

まず銀の食器を盗んだジャン・バルジャンを庇い「これは彼にあげたものです」といってさらに燭台まで渡して「あなたの魂を買った」という神父さんとの場面。ミュージカルではこの後すぐにバルジャンが真人間になるのですが原作は違います。そこがまたよかった。神父はバルジャンを信じていました。きっとどんなことがあってもバルジャンの為に祈ったでしょう。彼が自分の真実神の御心に添う人間になれるように祈るだけです。決して矯正しようとしたり、責めたりしないのです。ただひたすら、祈るだけです。人を変えるのは言葉や物などではないと思えます。

紆余曲折あってバルジャンは真人間の道を歩き始めます。人並以上の暮らしを手に入れても益々世のため人のために働きます。時には命をかけます。でもちっともバルジャンの人生はメデタシメデタシと終わりません。地獄の番犬みたいなジャベールが決して見逃さないし、次々と偶然が重なってピンチが訪れる。

ここでふと浮かんだことがあります。日本人は無宗教というか信仰を持ってないとはっきり言う人が多いと思いますが、お正月には初詣に受験の時などに祈願に行ったりします。さらに新興宗教などでは、これだけのお供えや何事かをしたら、なんらかの結果を保証してくれるらしいことを言うところもある。そんな風いろんな人生のピンチでも頼んだりする事が多いと思います。稀に願いが叶ったという方もいるし、そうでない人もいます。

でもバルジャンの様子を見ていたら明らかにそれとは逆行している気がします。バルジャンも信仰を持ち、人々のために尽くしたはずですが、どんどんハードルが高くなっていくのです。なんで～という感じです。

「レ・ミゼラブル」は長い間、読みつがれてきた名作です。ミュージカルもありますし他にも沢山いろんなメディアになっているこの小説は「信心すれば助かる」というような安易なことは一切書かれていませんでした。「〇〇をしたら得する」という事ばかりが量産される中、その意味を考えるとこの世も捨てたモンじゃないなと思えました。

そして改めてバルジャンの苦難に立ち向かう姿を見て納得できたことがある。使い古された言葉ですが「神様はその人が成長するために、その人が越えなくてはならない、越えられるべき試練を与えてくれる」ということ。

バルジャンは自分の罪を被って監獄に行く人を救う為に名乗り出る話があるのですが、小説では大変すごく悩むんです。ミュージカルではアッサリですが、原作では読んでるこっちまでイライラするくらい悩むんです。でも当然ですよ。自分の命がかかってるんだから。その状況はサザエさんの「悪いカツオと良いカツオ」の状態です。

結局は悪の誘いに乗らず、神様の心に添った答えを選ぶのですが。これがアッサリ助けに行くバルジャンだったら話はそこで終わっていたでしょう。

人生はこんな風に絶えず試練を与えられて、悩みっぱなしで当たり前なのだと思います。

「なんで自分ばかりこんなめに」とか「こんなに尽くしたのに（人も神様も）私の願いを何も聞いてくれない」と不平の多い世の中ですが、私自身、持病が悪化するとついつい思ってしまいます。

でも本当はそうではない、そんな風に考えていてはいけないのだとわかった気がします。

とはいえ私はバルジャンほど強くありませんので、あくまでわかった気がするだけです。

本当にわかるのはやはり死ぬ時なのでしょう。

それまで何度も繰り返しこの物語を読むことだと思います。その時、その時にきっと読んでよかったと思えると思います。

「レ・ミゼラブル」との付き合い方

<http://p.booklog.jp/book/44583>

著者：みのり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/holilyoc/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44583>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44583>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.